

リレー連載

コバルトコーヌス クリニカルケース プレゼンテーション Vol.10

臨床ケースから読み取る新しい全顎欠損補綴術式の勘所

マージン不適合などに伴う度重なる通院に 悩んできた患者へのコバルトコーヌス治療

従前からある治療法（コーヌスクローネテレスコープクラウン変法）を用いて術者の想定以上に患者に満足して頂いた症例

稲城はせがわ歯科医院（東京都稲城市）
長谷川 英毅 Hideki Hasegawa

| 症例概要 |

患者：初診時72歳の女性

主訴：「上顎セラミックの境目が黒くなっているのが気になる」「治療法を相談し、良い方法があれば検討したい」とのこと。歯科医院への来院は3年ぶりであった。

既往歴：高血圧症 脂質異常症

現病歴・現症：以前から他医院にて補綴装置を製作するも何度か交換していた。紹介来院。上顎前歯部および臼歯部にブリッジタイプの補綴装置が装着され全ての歯に補綴処置が施されている。歯肉出血は認められるものの、深い歯周ポケットや歯牙の動揺は認められない

〉 はじめに

わが国では超高齢社会を迎え、2040年には65歳以上の高齢者は総人口の35%を超えることが予想されている。筆者の診療所でも高齢者の受診割合が多くなっており、口腔内の状態は残存歯数、残存歯の状態、補綴装置の種類やデザインもそれぞれ異なり、複雑な補綴装置が混在している者もいる。我々歯科医療従事者は健康な口腔機能の維持を図るために日々、その時の患者本人にとって最良であろうと考えられる、患者が望む治療をして